**貸借対照表と損益計算書の関係**

作成日：平成28年11月28日

作成者：倉重会計　菅野

貸借対照表(B／S)

|  |  |
| --- | --- |
| **資　産** | **負　債**  **借入金　　＋**  **元本　　－** |
| **純資産** |

**財政状態**

損益計算書(P／L)

|  |  |
| --- | --- |
| **費　用**  **仕　入**  **人件費**  **諸経費**  **各種償却**  **利　息** | **収　益**  **売　上** |
| **当　期　純　利　益** |

**営業成績**

企業会計はゴーイング・コンサー(going concern)における会計期間を人為的に区切って行う期間計算である。財務諸表(F／S)を構成する貸借対照表(B／S)と損益計算書(P／L)の定義の確認が重要である。

貸借対照表(B／S)とは企業の営業活動における一定時点の財政状態を表す財務諸表である。

　　損益計算書(P／L)とは企業の営業活動における一定期間の営業成績を表す財務諸表である。

**財務諸表(F／S)の正しい読み方**

　　期首の財政状態(前期末貸借対照表(B／S))が一定期間の営業活動を行った結果その財務状態は期末の

貸借対照表(B／S)の状態になると読むのが正しい捉え方である。

**【1】貸借対照表(B／S)検証ポイント**

①純資産の部が超過債務になっていないか検証。

②自己資本比率の割合の検証。

**計算式・・・・・自己資本比率(ROE)＝（（総資本－他人資本）÷総資産）×100**

従って財務分析における他人資本(負債)と自己資本(純資産)の割合は50：50が理想である。

③短期借入金について検証。

　　短期借入金は下記のような活用方法ができるので中小企業においては有効活用をする。

1. 現金で返済を行う
2. 定年後の返済は私的年金となる
3. 債権放棄による債務免除益の計上は財務内容を改善する
4. 債権放棄による現物出資は現金によらない増資が可能となる
5. 短期借入金の返済は相続税納付資金対策となる
6. 短期借入金の返済は退職金の所得税対策となる
7. 事業承継者は相続財産として引継ぎ事業資金として活用できる

**【2】損益計算書(P／L)の検証ポイント**

①損益計算書(P／L)は利益の段階的表現である。従って、下記の検証を行う。

売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益の五段階の検証。

②利益が計上された場合は、青色欠損との比較検証。

③返済可能限度額について検証。

　　　　　銀行からの借入金元本の返済における健全なキャッシュ・フローとは、当期純利益＋償却額(非支出費用)との合計が元本返済を凌駕することが重要である。この点について『返済可能限度額』はキャッシュ・フロー上の概念であり資金繰り分析において重要である。

　　　　以上財務諸表(F／S)の見方について私見を表示しました。